中部地方の沖釣り情報　遠州灘・伊勢湾・若狭越前

沖釣り釣行記

伊勢湾

秋のウタセマダイ最高潮 !!

秋のウタセマダイ釣りの魅力は、「小型マダイの数釣り」と「大型青物釣り」の二つに集約される。

11 月 13 日（金・旧暦 10 月２日・新月大潮三日目）、釣友の平尾友美さんと二人で、鳥羽市の孝志丸（浅尾孝志 船長）に乗り込み「秋のウタセマダイ釣り」に挑戦した。

[68 ㎝のワラサを手に]

[足元のイケスの中も賑やか]

[45cm のマダイとエソの一荷]

５人の釣客を乗せた孝志丸は、11 時に本浦港を出港。　11 時 40 分には、船長から「ハイ！どうぞ」のアナウンスがあった。　すぐに、仕掛けを投入。　道糸は左前方に流れていく。　36m で着底。　糸フケを取ってアタリを待つが、全くアタリはない。　仕掛けを上げて、エサを確認すると４本バリの下３本のエサがなくなっている。　底には、多種の”エサ取り“が群がっているようである。

３投目にようやくアタリがあり、28cm の焼きサイズのマダイが上がってきた。　その後は、”エサ取り“との闘いが続いた。　14 時ころ、70m 程先を流していた私のサオの先に、ひったくるようなアタリが出た。　最初は、リールから糸が引き出されたが、やり取りするうちに巻き上げができるようになり、 船長の差し出すタモに 68ｃｍのワラサが収まった。　3 時過ぎ、「全然、アタリが無い」と嘆いていた友美さんのサオに大きなアタリが出た。　時々、糸を引き出しながら、45cm のマダイと同寸のエソが船上に。　船内、大爆笑 !!　その後は、マダイ・ハマチ・馬面ハギ・クロダイなどが上がり、17 時 30 分に納竿。　私の釣果は、マダイ６尾、ワラサ・ハマチ３尾・馬面ハギ１匹の計１０匹であった。　今日も納得の釣りを楽しむことができた。　釣りの神様に感謝・感謝である。

“エサ取り対策” 怠りなく !!

この時期は、厳冬に耐える体力作りのために、魚の活性は高く好釣果が期待できる。 しかし、カワハギに代表されるいわゆる“エサ取り”の活性も高く、“エサ取り”との攻防の上手・下手で釣果に大幅な差が出ることも確かである。 ベテラン釣り師は、着底前にシャクリを入れたり、捨て糸を長くしたり、針の本数を増やしたりするなどして、自分なりの対処法を工夫しておられる。

読者の皆様も、釣行前に、自分なりの”エサ取り対策“を組み立てた上でお出かけください。

［松岡隆春　H27.11 /16 ］